

高知県宿毛市（国内 27 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 16 日実施）

令和 2 年 12 月 16 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山間部に入った河川沿いの段丘上に位置し、付近は雑木林に囲まれている。
- ② 農場から約 730m の距離にある河川の下流では、調査時にマガモ 9 羽、オシドリ 28 羽の計 37 羽、また、約 3km の距離にある河川の下流では、マガモ 15 羽、カルガモ 92 羽等の計 100 羽以上の水鳥が確認された。
- ③ 当該農場にはセミウィンドレス鶏舎が 3 棟あり、発生時には、すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は農場敷地の中央に位置していた。また、農場には GP センターが併設されていた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、当該農場における 1 日あたりの死亡鶏は、5 羽程度で推移していた。12 月 14 日には 8 羽の死亡鶏が確認されたが、各鶏舎内で散在していたことから、異常とは感じなかったとのこと。
- ② 管理人によると、12 月 15 日、6 列中 4 列において、鶏舎中入口付近から中央側のケージに広がる形で計 40 羽の死亡鶏が確認され、かつ同一ケージで飼養される 2 羽がともに死亡していたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。その際、肉冠の異常等は認められなかったとのこと。
- ③ 管理人によると、家畜保健衛生所に通報した後、残りの 2 列についても確認したところ、さらに 30 羽の死亡鶏が鶏舎中央付近にまとまって確認されたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 13 名の従業員が勤務しており、そのうち 2 名が鶏舎専属の管理人で、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収していた。
- ② 管理人によると、従業員ごとに担当する鶏舎は決まっておらず、2 名の従業員は、発生鶏舎を含むいずれの鶏舎においても作業する可能性があるとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着、長靴及び手袋を使用し、鶏舎に入る際は鶏舎専用の長靴を使用していた。ただし、各鶏舎間を移動する際、踏み込み消毒は実施するが、長靴や手袋の交換は行っておらず、手指消毒は 12 月 14 日から開始したとのこと。
- ② 鶏舎横の飼料庫内には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、湧き水が使われており、パイプによって各鶏舎に供給されているが、消毒は実施していなかった。
- ④ 鶏糞はスクレーパーで鶏舎手前に運ばれた後、スクリューで鶏舎外へ搬出され、農場内のコンポストで堆肥化される。なお、堆肥置き場には防鳥ネットは設置されていない。
- ⑤ 健康観察時に回収した死亡鶏は、鶏糞とともに、コンポストにて堆肥化している。
- ⑥ 管理人によると、1 鶏舎には複数の日齢の鶏群が飼養されていることから、鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを行っていないとのこと。オールアウトになった列については、清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑦ 管理人によると、11 月に香川県で高病原性鳥インフルエンザが発生した以降、農場

周囲の消石灰散布による消毒を行なっているとのこと。

- ⑧ 管理人によると、車両が農場敷地内に入場する際、入口に設置された蓄圧式噴霧器による消毒を行っているとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の側面の開口部は、外側からロールカーテン、金網、カーテンが設置されている。また、鶏舎入口及び奥側の側面には換気扇が設置されていた。管理人によると、発生時にはカーテンは閉じていたとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 各鶏舎と集卵室を繋ぐバーコンベアの鶏舎開口部、鶏舎外への鶏糞の排出口には隙間が、壁には5~10cm程度の破損口が認められ、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ② 管理人によると、農場敷地内ではカラスやスズメが確認されることがあるが、鶏舎内で確認したことはないとのこと。
- ③ 管理人によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあり、定期的にネズミ対策（バネ式罠の設置）を行っているとのこと。調査時には、発生鶏舎でネズミ類が囓って開けたと思われる天井や壁の複数の穴、隣接鶏舎内ではバネ式罠にかかったネズミがそれぞれ確認された。